

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (四国)	◎	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上と外商売上共に好調である。特に外商売上が全体の売上を押し上げている。
	◎	その他小売〔ショッピングセンター〕（総務部担当部長）	販売量の動き	・台風等の天候状況に影響を受けた面はあるが、大型イベントの本格開催（再開）等による人流や旅行需要の拡大が進んだ。
	○	商店街（常務理事）	来客数の動き	・月初め、人気の小売店が商店街のなかにオープンし、にぎわった。月末に近づくと、例年より多いと感じていた国内の観光客が減り、インバウンドは変わらず多いものの、売上全体では落ち着いてきている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・8月の祭りは多少台風の影響があったものの、かなりの人出でにぎわった。そうしたことから、飲食を中心に消費が大分戻ってきていると考える。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症に対する規制の緩和により、旅行及び帰省客が増加し、お盆商戦が好調に推移した。
	○	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・夏休みに入り、旅行関連商品の伸長や、お盆の帰省需要の回復など、客の消費動向の変化によって、景気の現状は良い。
	○	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・夏休みに、大都市から県外客が割と来て、購買につながった。また、県内の観光客も同様であり、多少は観光客による需要があったと考える。
	○	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・メーカーの生産台数増加により、登録台数が増加した。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・8月はお盆と夏休みの時期だが、前年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、当地域の祭りのイベントは縮小気味であった。しかし、今年の祭りでは、記念のイベントや全国大会もあり、人の入りが良かった。しかしその後、祭りが終わってからは良くない。
	○	観光遊園地（主幹）	お客様の様子	・外国人観光客の増加傾向が続いており、円安の影響で消費額も伸びている。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・8月はお盆やイベント等でいろいろと人が動く事が多かったため、店も活気が出ていた。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・現時点では、売上金額が前年を上回り好調に推移しているが、利益金額では思うようには推移しておらず、経費の高騰が影響している。また、客の会話等からは、新型コロナウイルス感染症の反動によって、多少は人が集まっていると聞いているが、それは個人単位の行動や傾向であり、企業や団体単位の行動については、まだ少し鈍いように考える。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の影響は、まだほとんど収束していない。さらには、働く人にとって猛暑の影響がかなり大きい。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・現在、開店日数は増加しており、祝い商品の注文についても新型コロナウイルス感染症の発生以前に近い状態に戻ってきている。しかし、繁華街における人流は減ってきている。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数と販売点数共に回復していない。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・商品の値上げが止まらない。また、買上点数には変化がみられないため、値上げによって生じた売上の増加となっている。
	□	スーパー（財務担当）	それ以外	・書き入れ時であるお盆の時期だが、台風の影響によって、お盆の後半は大きく売上を落とした。
□	コンビニ（店長）	販売量の動き	・価格上昇に伴い客単価も上昇しているが、1人当たりの買上点数は減少している。売上は前年比微増である。	
□	コンビニ（店長）	販売量の動き	・8月はかなり暑かったため、飲料を中心に売上は確保できたが、全体で見た場合、順調に増加といった良好な状況でもなく、何とか前年並みの売上を確保できた状況である。	

	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・7月と8月共に来客数が前年を上回っている。コロナ禍になって初めての制限がない夏休みとお盆であったため、人流が活発になり旅行やイベントなどが盛況に行われていた。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・盛夏で、人流やインバウンドの回復があり、来客数が増加したが、物価高と販管費の高騰が影響し、利益の増加とはなっていない。
	□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・8月はバーゲンセール最終月で、特にお盆が売上の中心となり、お盆以降は厳しくなる。今年はそれが極端に現れ、20日くらいまではある程度良かったが、それ以降で厳しく、前年比微減となっている。
	□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・季節商材の販売数は例年どおり増加しているが、それ以外の主要商品の動きが悪く、全体では伸びていない。
	□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・今のところアフターコロナのリベンジ消費が続いており景気は安定しているが、人手不足もあり収益は思うようには上がらない状況である。
	□	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・エネルギーコストの増加や食品の値上げ、人件費のアップ、また、人手不足の影響により、販売量は増加しても、収益は低下傾向の企業が多く様子見の状況である。また、全国旅行支援の部分的な再開は好材料ではあるが、台風などの天候の影響が不安要素の1つである。
	□	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・各種商材の販売数は大きな変動もなく、横ばいで推移している。
	□	設計事務所（所長）	単価の動き	・建設の単価は高止まりしており、まだ価格上昇の気配も若干残っていると考える。
	▲	一般小売店〔文具店〕（経営者）	販売量の動き	・例年であれば、夏が終わる今頃から、取引先より年度後半に向けての商品の問合せや見積りがあるが、今年の現状をみると鈍い感じで動きが少ない。
	▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・出荷数が低迷しており、客からの声では物価高騰の影響で外食も購買回数も減っているとよく聞く。
	▲	スーパー（統括担当）	販売量の動き	・販売量が前年比で悪くなっている。特に8月に入ってからその傾向が顕著である。
	▲	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・前年比102%程度で売上が推移しているが、3か月前と比べると改善幅が大きく縮小している。加えて、猛暑の影響により来客数も減少し、やや苦戦している。
	▲	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・来客数に伸びはなく、販売量は若干減少している。長期の連休等により、レジャーやイベント等へ人出が集中し、そちらで金が消費されたのではないかと考える。
	▲	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・新車の長納期化で受注停止となる車が多いため苦戦している。
	▲	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・お中元の時期が終わり、来客の状況も落ち着いて少なくなっている。
	▲	旅行代理店（部長）	それ以外	・物価の上昇による影響がある。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・特にタクシーに関しては、今春は四国遍路の仕事が結構あった。しかし、夏には四国遍路の仕事がほぼなくなり、春と比べて売上が少し落ちる。また、街もそれなりに動いているが、春先よりは今の売上が落ちていると考える。
	▲	通信会社（社員）	お客様の様子	・若年層はテレビを視聴しない傾向になっている。
	▲	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・物価高に加え、ガソリン代も上がってきており遊興に回せる余裕資金が減ってきている。
	×	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の受注台数が前年比大幅に減少している。
企業動向関連 (四国)	◎	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・観光地や商業施設、路面小売店において、全国的に景気が回復している。特に観光地は新型コロナウイルス感染症発生前の状態に戻っている様子がある。また、猛暑が続いていることがタオルの受注を押し上げていることもあり、まだしばらく受注は活発であるとみられる。

	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共、民間共に工事が出だした。
	○	輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格について、少しでも価格転嫁をできそうである。
	○	通信業（総務担当）	それ以外	・社外イベントやボランティア活動、また、セミナー等への参加者が増加傾向にあり、マスク着用者も明らかに減少傾向にあると見受けられる。従来の生活様式に戻りつつあり、人流が増えたと考える。
	○	金融業（副支店長）	取引先の様子	・当地域の祭りやインバウンドにより、観光客が増加したことで、宿泊業や飲食店の売上は増加した。
	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・台風被害や高温・日照不足の影響のため、果菜類・茎葉菜類等の市場入荷量は少量で推移している。一方、卸売価格は一時的に上昇するが長続きせず、すぐに価格が下がる状況のため力強さがない。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・人手不足のため生産・販売量は苦戦しているが、受注量は安定している。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内需要は、大型公共工事を中心とした順調な稼働状況を背景に、堅調に推移している。海外需要については、緩やかな景気回復を背景に、欧州を除く全ての地域で増加傾向となった。一方で、ロシア・ウクライナ問題の長期化やインフレ・円安進行などにより、原材料・エネルギー価格は高止まりし、調達・物流環境は厳しい状況が続いている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・なかなかすぐに中型物件が決まらないのは、物価高の影響ではないかと考える。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・取引先の売上推移を確認しても大きく変動はしていない。
	▲	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・住宅資材の価格高騰の影響で、住宅販売価格が高騰している。ひいては戸建て住宅の着工数が減少し、商品受注が激減している。今後もこの傾向は継続すると考える。
	×	—	—	—
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（役員）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス感染症に対する警戒感もなくなり、公共施設の利用者が前年比130%と集客数を伸ばすことができている。そうしたなか、サービス提供側の職員が不足したため、季節雇用の求人ニーズが高まった。
	○	職業安定所（求人開発）	それ以外	・企業は物価高騰で売上増加となるが、収益自体は増えず、苦しい対応を迫られている。年齢の高い人に対しリストラ等をしている一方で、人手不足が続いており、人を育てるという意味で、新規学卒採用や中途採用を継続する動きも変わらない。
	□	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・求人数は増えてきており、景気回復の兆しはあるが、求職者の不足で採用難が続いており、県内の中小企業では人員の充足に至っていないところが多い。
	▲	新聞社「求人広告」（担当者）	それ以外	・ますます民間企業から広告の出稿が減ってきている。
	×	—	—	—